



2015・1・21

第 197 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

集団的自衛権行使容認は 9 条を根底から破壊

「九条の会」呼びかけ人会議開く

「九条の会」の呼びかけ人会議が 1 月 19 日に開かれました。会議には大江健三郎、奥平康弘、澤地久枝の各呼びかけ人が参加、「戦争する国」への暴走をつづける安倍内閣のもとで、「九条の会」はどのような発信をしていくかについて意見交換しました。

情勢をめぐる論議では、集団的自衛権容認の閣議決定をおこない、それを具体化する関連法の整備をおこなうことは憲法 9 条を根底から破壊するものであり、日本の民主主義は重大な局面に立たされているとの認識を確認しあいました。

そのようななかで、これまで別々に行動してきた憲法運動関連団体が今年 5 月 3 日に共同の集会を開くことが報告され、そうした動きが広がることへの期待が表明されました。そして「九条の会」自身、全国 7500 の「九条の会」が、どのように「九条の会」らしいやりかたで草の根から「戦争する国許さない」の世論をまきおこすか、についても活発な意見交換がおこなわれました。

これらの論議を踏まえて呼びかけ人会議

九条の会全国討論集会

◇日時

3 月 15 日（日）午後 1～5 時

◇会場

専修大学神田校舎（東京都千代田区）

◇内容

○呼びかけ人あいさつ

○情勢のとらえ方や取り組みについて各九条の会の意見交換

◇参加者 全国の地域・職場・分野別九条の会のメンバー（要・事前申込み。別途申込書をサイトに掲載します）

としては、全国の創意ある取り組みを呼びかけるアピールを近く発表することと、情勢のとらえ方や取り組みの方向について意見を交換しあう「九条の会全国討論集会」を別項のように開催することを決めました。

「消費者・生活者 9 条の会」結成

昨年 11 月 10 日、「消費者・生活者 9 条の会」が発足しました。呼びかけには、ア

サー・ビナード（詩人）、大野和興（日本消費者連盟共同代表）、瀬瀬美千世（日本消費者連盟事務局長）、清水鳩子（主婦連合会参与）の各氏らが名を連ねています。

「会」はいま、「私たちの消費生活には、平和や人権、環境が深く関わっています。戦争はもちろん、核兵器も核（原子力）発電も、社会に受け入れてはならない代物です。私たちは主権者として、消費者・生活者として、憲法9条の旗を高く掲げたいと思います」と、賛同呼びかけています。

今後、学習会や講座、シンポジウムなどを開催していく予定です。

4回目の九条美術展

【九条美術の会】 九条美術の会は1月11日から17日まで東京・上野の東京都美術館で「第4回九条美術展」を開きました。美術展は09年から隔年でこれまで3回、埼玉県立近代美術館で開かれてきましたが、都内では今回が初めて。安倍内閣の動きに対する危機感を反映してか、関東地方を中心に最多の245の出品作がありました。

若者らによる改憲反対のデモを高さ約2メートルの切り絵で表現した「守ろうコール」や金属製の「9」が糸の上でバランスを保っている立体作品「線上の甘露 BALANCE & TENSION」などの力作に訪れた人たちは見入っていました。

集団的自衛権行使容認反対の

アピール賛同者128人

【映画人九条の会】 映画人九条の会が昨年6月から募ってきた「集団的自衛権の行使容認を許さない映画人九条の会アピー

争点隠しながら「信任得た！」

昨年12月14日の総選挙の翌日、安倍首相は、「我々は政権公約を示している。政権をとった以上、中身について進めていく責任がある」と語りました。その一つに集団的自衛権行使に向けた法整備があることはいうまでもありません。

しかし、自民党の総選挙公約に「集団的自衛権」という言葉はありません。さらに選挙期間中、安倍首相は74回街頭に立ちましたが、安全保障政策に触れたのは半分以下の31回、「集団的自衛権」という言葉をつかったのは13回（「朝日」12月17日）です。

もともと14年中といわれていた日米ガイドラインの改定や、その具体化の法整備の全容公表も本年4月の統一選挙後に先送りしたのも、自民、公明両党内にあまり早く明らかにすると地方選挙にさしさわるとの声があるため。つまり、「戦争する国」の姿が国民の前に具体的に明らかになることを恐れてのことではないでしょうか。

ル」への映画人、映画関係者、映画愛好者らの賛同者が1月19日現在128名に達しました。その中には次の方々が含まれていません（順不同）。

高畑勲（映画監督）、ジャン・ユンカーマン（記録映画作家）、小山内美江子（脚本家）、大澤豊（映画監督）、神山征二郎（映画監督）、降旗康男（映画監督）、澤島忠（映画監督）、倍賞千恵子（俳優、歌手）、山田洋次（映画監督）、大竹しのぶ（俳優）、原田浩（アニメーション演出）